

# 加東市の学校教育における環境学習支援

2009年7月に、ひとはくは加東市の推進する「まちまるごとミュージアム事業」に協力するため、加東市と協定を結びました。「まちまるごとミュージアム事業」は、加東市の3町合併（滝野町、社町、東条町）の3周年を記念して3年間実施されました。本事業の終了後も協定は継続され、加東市が推進する環境学習事業に協力しています。



協力協定調印式（2009年7月）

学習支援の主な内容は、秋期の「加東市ノーベル大賞」事業、夏休みの「子ども水辺調査隊」や各学校における環境学習への講師派遣です。

「加東市ノーベル大賞」は同市が推進する環境学習の最重点事業で、市内の小・中学生が夏休みに自然環境に関する自由研究に取り組み、その成果の中から優れた作品を選出して賞を授与するものです。ひとはく研究員は審



第7回 加東市ノーベル大賞表彰式、各賞受賞者のみなさん（2015年10月）

査委員を務め、表彰式において研究に対する講評を担当しています。

一方、ひとはく研究員や兵庫県立大学大学院生も、加東市の小学校の協力を得ながら、新しい環境学習プログラムの開発と実践を試みています。



子ども水辺調査隊（2011年7月）



大学院生による環境学習プログラムの授業実践（2015年10月）



加東市連携推進会議

代表者：佐藤裕司

分担者：半田久美子、黒田有寿茂、藤本真里

協力者：加東市教育委員会生涯学習課、加東市小学校環境教育研究部会